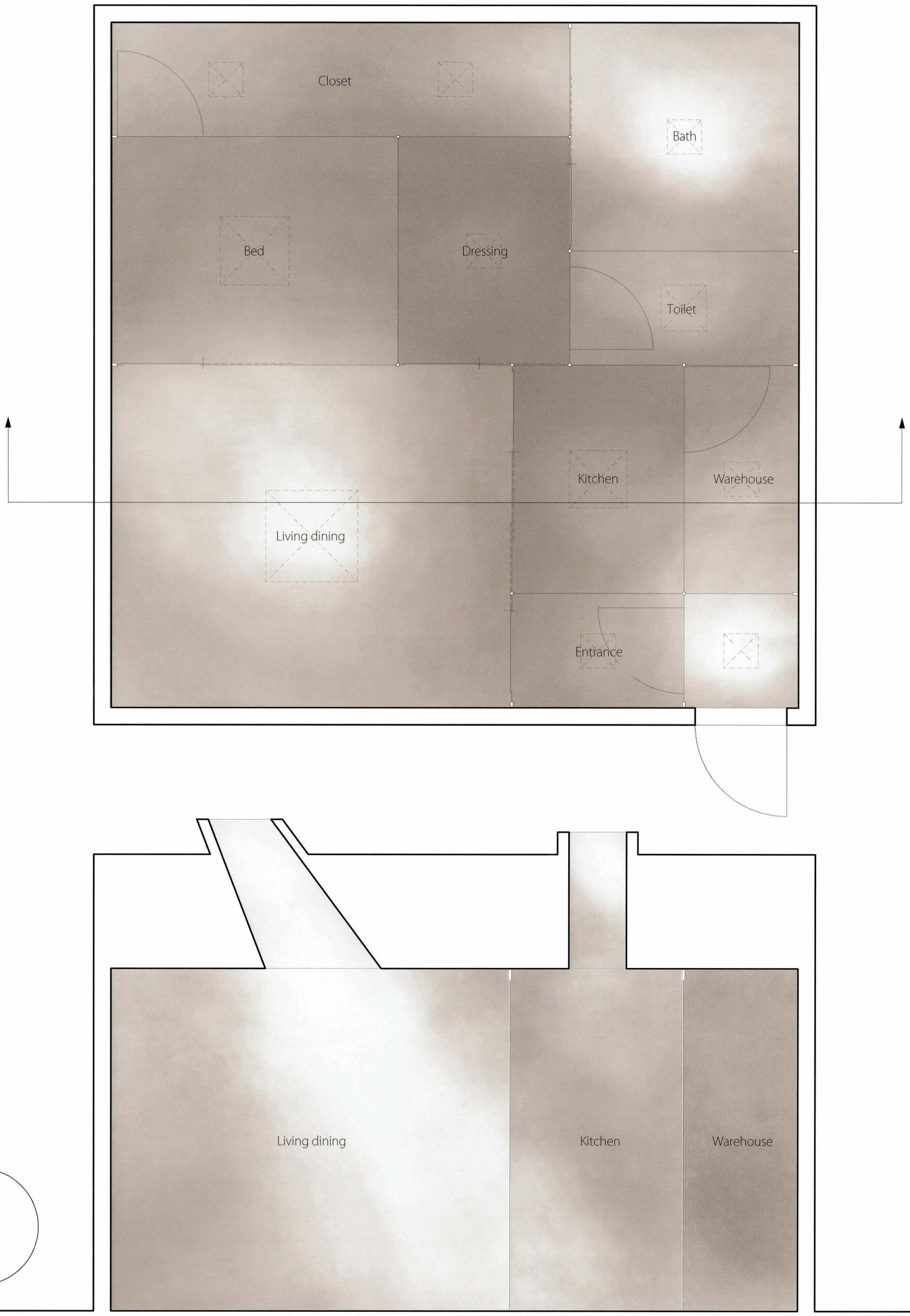
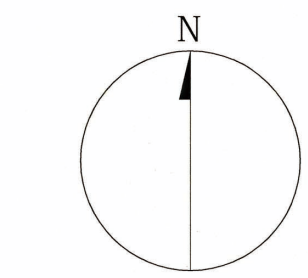
光の深度と空間の変化





―光に素直なガラスについて―

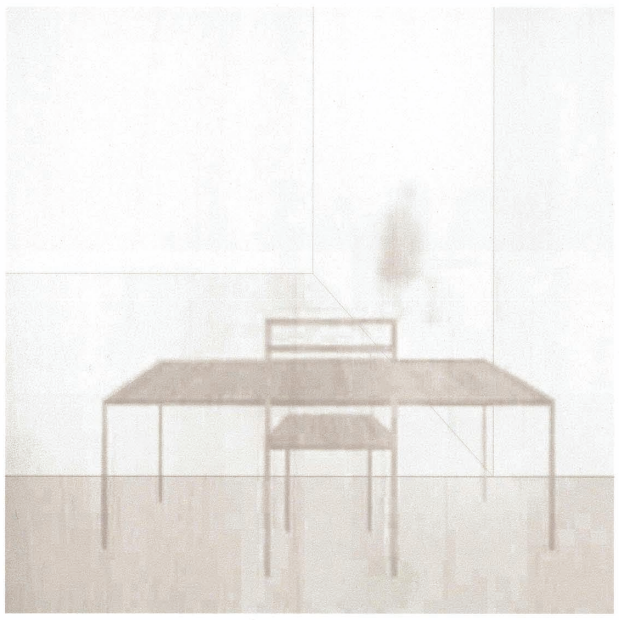
きれいな窓ガラスは時として姿を消す。ガラスは確かにそこに物質として存在しながら、私には存在を確認することは出来ない。しかし、光があたれば何より強い存在感を放つ。ガラスは光を反射させ、光に形を与えるように私にガラスの存在を教える。ガラスは刻々と変化する光に順応するように自らの見えを柔軟に変化させる。

私は、この光に素直なガラスについて考える。

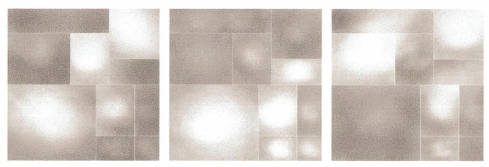
―ガラスの見えと空間の変化―

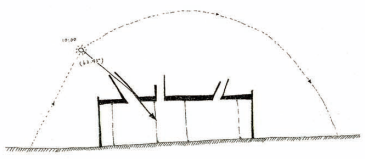
ガラス壁で区切られた住宅を考える。区切られた空間にはそれぞれ傾いたトップライトが付けられる。トップライトからは異なった時間帯に光が降り注ぎ、1日を通してガラス壁が様々な光を映し出す。

光が当たる壁は強い存在感を放ち、光の当たらない壁の存在感は希薄になる。ガラス壁の光による見える見えないの関係は1日を通して空間の広さ・繋がりに変化を与える。



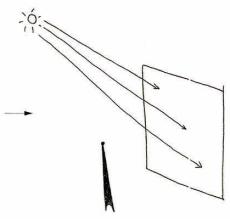
夕方　　昼　　朝



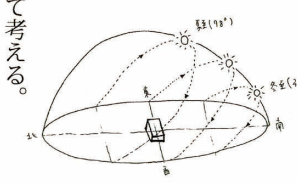


fg4. トップライトの光とガラス壁の関係

fg3. 見えない



fg2. 見える



fg1. 光の変化